

DADA

第7号 2008年4月20日発行



2月16日に開かれた
座談会の様子（詳しくは
本文をご覧ください。）

目次

■特集■

読者による「アフリカ報道」座談会 報告

| | |
|-----------------------|---------|
| ・ パネリスト発言要旨 | 2 - 3 |
| ・ 参加者のコメント | 4 - 5 |
| ・ まとめ | 6 - 7 |
| ・ 2007 気になる記事 | 8 - 11 |
| ・ 統計(参考) | 12 - 13 |
| ■ 速報 ジンバブウェ統一選挙 | 14 - 15 |
| ■ お知らせ・編集後記 | 16 |

15頁にDADA
報告会のご案内
があります。

読者が考えるアフリカ報道 座談会

2008年2月16日、調布市国領町にある調布市市民活動支援センターにて、2007年度は読者による座談会を開催しました。座談会は、アフリカからの研修生座談会、ジャーナリスト座談会に続き3回目です。

この座談会では、コンゴ民主共和国からの留学生であるウィリー・トコさんを招き、アフリカクリッパーの3人（篠崎節子さん、DADAスタッフの佐藤由規と尾関葉子）を中心に、会場に来てくださった方と一緒に、アフリカの報道について普段思っていることや問題意識などを出してもらい、その中で「自分たちにとって本当にいい新聞記事って何」や「新聞に対して何を求めているのか」などを話しました。

なお、司会は、本田真智子が務めました。（本文中の太字は、編集部でつけています。）

「アフリカ報道」の印象について



ウィリー・トコさん キリスト教の宣教師として来日。その後、メディアの勉強をするために、東京大学大学院・学際情報学府・修士専攻（学際情報学専攻）に入学。現在は、同学府博士課程。

ウィリー・トコさん： アフリカ報道の印象、それはやはりマイナス報道が多い。日本の場合、さらに「稀薄」というキーワードもついてくる。アフリカは、「多様性」を持つと同時に「共通性」をもっているにも関わらず、先進諸国のメディアは、アフリカは紛争、戦争、HIVエイズに集約される「共通性」を強調する報道になる。

「アフリカ報道」と言われると、“何？”と思う。ヨーロッパ報道とか、アジア報道とかって言わないでしょう。また、アフリカだけでなく、「アメリカとか、ニュージーランドとかだって情報がないでしょう？」とも言われる。でも、それらの地域は、アフリカ大陸に比べ、イメージとしてはいいイメージですからね。それに、「アフリカ報道」とくりをつける必要があると思う。他の世界にくらべたら一番辛らつ、一番歴史のつらい経験、一番問題とされている大陸だから。

性質、背景、その推移をどう伝えているか。やっぱり、日本の主流メディアは、ヨーロッパとアメリカのアジェンダに沿ってアフリカを伝えることが多い。例えばダルフール、朝日新聞も一年間くらい報道しませんでした。イラク戦争が勃発して、同じ時期にあらわれてきたのに。そういうことから、「アフリカ報道」という問題提起がなされないといけないと思う。

例えば、HIV・エイズは、国際面じゃなくて、地方面、支援している人のコンサート紹介記事みたいな載せ方が目立つ。でも、ダルフール紛争の記事が国際面に載っても、そこを支援している日本人もいるはずなんですけど、地方面になかなか、それは載らない。紛争はどう見られているか。そのHIVと戦争とのコネクション、どうやってつなげていくか、新聞は、日本人の目をどういう方向に向けようとしているのかというのが見えてこない。私から見ると、日本の新聞が出しているHIV/AIDS記事は支援重視、外交はODA中心の話で、アフリカの現状、本当に必要な対策、倫理や文化の問題や、薬品（ARV）の問題などに関する根本的な問題提起がなされていない。結局、対策と支援がずれているんじゃないかという印象がすごく強い。なんのための支援、何のための情報、情報が不足しているのか、偏っているのか。「アフリカ」に関する情報“偏食”みたいな状況が生じているんじゃないかとちょっと心配です。



篠崎節子さん： 東京新聞をクリップする人がいなくて、たまたま頼まれて始めたんです。ただ、ぱっと読んでいたのですが、私、本当にアフリカのこと知らなくて、トーゴの記事見ながらこれはアフリカなのかな？と思いながら切っている状態。すごい時間かかるんです。でも、こういう人が一人増えるって、おかげさまでテレビも、雑誌読んでも、記事を読むようになったんですね。何かとつながりがあれば、私みたいな家にいる者でも、こういう形で協力できるし、関心ももつこともできるんだなって思っています。

(司会：アフリカに関してのアンテナが立ったという感じ?) そう。他のものも読むようになったし。でも、何か印象に残った記事といわれても、読んで、自分なりに考えてとかは去年までまったくなくて。(なんでトゴだったんですか?) たまたま切り抜いた時、トゴという名前があって。私、昭和20年生まれなんですけど、そういう人間にとって今のアフリカの国の名前は、想像もつかないくらいに増えている。だから、ここにいらっしゃる方は当然わかるんでしょうけれど、20年ぐらいに生まれた人の頭の中にある世界地図というは、全然違う。だいたいほかの大陸はそんなに変わってないじゃないですか。ソ連がロシアになったとか、それぐらいのことはわかるんですけど。本当に、「え?!」と思うかもしれないけど、わたしみたいに普通の家の中にはいつてしまった人間にとって、**今のアフリカの地図って全然。形はわかりますよ、でも、思い浮かばない。**だから、切る時に、「これってアフリカかどうか」というそのレベル。普通のおばさんってそうだと思います。

佐藤由規：アフリカっていうのは、学生の時は、大変そうだなとか、子どもが辛い目にあっているなというイメージが強くて、どちらかというマイナスのイメージでした。私が変わったのは、出会ったアフリカの人たち、アフリカという言葉でひとくりにするのはいやなんですけど、皆、大好きなひとたちで、そういう人たちがいるアフリカという経験から好きになりました。なので、新聞にアフリカとか載っているだけで「あ、アフリカ!」と嬉しくなってしまうアフリカファンの一人です。

新聞っていうのは、字さえ読めれば誰でも読めるもので、**はじめてアフリカという言葉に触れるのは新聞という人の確率はすごく高い気がします。**

そういう人が、いい意味で、普通にアフリカって受け入れられるそういう紙面であつたらいいなと、いつも思っているんです。でも、どうしてもやっぱり大変なこととか、厳しそうなイメージが多いような。だから、元気なアフリカを紹介しているコーナーがあるといいと思う。でも、それも私のバイアスかな。**元気なアフリカさえ載っていればそれでいいの**か、っていうと、それもちょっと違う気がするし。



尾関葉子：そうなんですよね。元気なアフリカっていうだけでも…。正直、15年近くアフリカ記事ばかり気にしていると、わからなくなります。最初の10年ぐらいは、「いえ、元気なアフリカもあります」って言って来たんだけど、佐藤さんも言っているように、それも極端すぎる。特に、去年の年末あたりから、報道が「元気なアフリカ」を出しておけば済むという感じにも受け取れて。ひねくれた見方かもしれないですけど。



例えば、紛争の話ばかりと言われていますが、紛争の話、ちゃんとは報道してない。どこでどんな紛争が起こっているのか、網羅されていない。そういう中で、15年前に起こったルワンダの虐殺は、**もっと早い段階で世界に報道されていたらと、報道が抑止力になったかもしれないと、何度も考えるわけ**です。そうすると、「紛争ばかり!」という批判は、決して正しい主張ではないのではと思ったりもする。何を報道して欲しいと主張するべきなのか、今ちょっと、わからなくなってきたというところでは。

司会：飢餓とか内戦とか暗い記事が多いので、疲れている私達のための一服の清涼剤のような「元気なアフリカ」というところ? (参加者Aさん：TICADに向けた方針が、「**元気なアフリカをもっと元気に**」というので、**あきらかに、ものすごくマッチしているなと思って**みます。)

日本人や日本を切り口として、記事が増えることは歓迎だけど、でも、例えば、アフリカの人がどう考えているかという記事はほとんどない。援助の現場の記事は結構載る。でも、日本人の〇〇さんががんばってますという載せ方が多い。**アフリカの人**は、「**難民**」か「**被災者**」か、「**庶民**」扱いで登場するだけ。専門家もいるはずなのに。日本という切り口からしかアフリカを見ていないという印象。日本人の目を通してしか伝えないと、何か抜け落ちてしまう恐れがあるのではと思っています。

この後、参加者の方からもコメントを頂きました。次頁へ→

参加者からも、コメントをいただきました。

「情報の厚さ」の必要

● (DADAが、掲載されている記事を件数で表記したことに関して) **行数計算しないといけないと思う。どれだけ量の記事が載っているのかということ。**アメリカの情報をたくさん知っているのは、他のものから入ってきているのであって、たぶん、新聞の報道だけでみたら、そんなに変わってない。例えば、ジンバブエの記事に関して、ナイロビ発の記事がある。書けるはずがない。日本で書いているわけです。APとか時事の記事とかあって。だから、たぶん新聞の報道も、そんなに変わらないと思う。

● 今は、アフリカの1%しか伝えてない。それを10%くらいはわかるようにここ2、3年かかってできるかどうか。在日大使館が35ある。外務省が官民協議会を作ろうとしている。(NGOを“民”の中に入れて我々は主張している。) NGOは、新聞記者とは違う種類の情報を持っているのだから。そして、TICAD。こうしたそれぞれの関係のところから、記事も増える。NGOがアフリカの入り口を拡大していくことができるのではないか。



● 新聞だけで豊富な情報が流れているわけではないという話、アジアやアメリカ、ヨーロッパとかもそうだと思うんだけど、アフリカと日本の間には、その厚さが無いゆえに、新聞のほうだけが目立ってしまって、新聞のとりあげているところの一面性により意識がいつてしまうのかなと私も思っています。

結局は、書き手、書かれている内容。行数というのは言われた通りで、ベタの3行の記事と、ある特定の場所ではあっても、その場所に行って取材するのとでは、違うと思うんです。

● 大阪でスーダンの視覚障害者(全盲)の留学生に話をしてもらったら、来てた**弱視の男の子が自分みたいな視覚障害の子どもが途上国にたくさんいるだろうに、どうしているのか**と思って来たと言っていた。そういう目線での要求はもっとある。政治とか外交とか経済の話が中心になるっていうのは、いわば、新聞を作っている人の目線がそこにあるから。

事実とオピニオン

他の地域でも同じですが、「事実」と「その人の考え」ということや、そこで感じた「感情」というか「思い」が、ごちゃごちゃに書かれている場合があるように思える。

もちろん、どの記事も、記者が行って目をつけて話を聞いたことで、それを**歪曲はしていないと思う。要は、どの事実を並べて自分の考えを表現するか。**考えといっても、自分を主語にしてアフリカはこういうところだと語る、表現の仕方もあるが、もう一つ、**事実をうまく組み合わせること**で一つの考えを表現するという二通りの書き方があると思う。そういう部分では、11月25日の毎日新聞コラム(発信箱)の「戦場の現実とは」(11頁参照)でまさに書かれてある、わかりやすい絵に書いたような説明と現実の違い、というところが、見えてくるだけのアフリカ報道の厚さはない。

ただ、それはアフリカでも他でもあることなので、それを、読み解けるような、自分たちのメディアリテラシーや、新聞だけではない情報の厚さを日本の中でどう増やしていけるか。それがセットになると、ある部分、新聞のアフリカ報道がこうであっても、読み方とか理解とかが、ずいぶんと変わっていくのかな。決して、アジアや南米、アメリカの報道が、新聞紙上でバランスがとれているわけではない。違いはそっち(読み手のリテラシーや得る情報の厚さ)のほうではないのかな。

アフリカと日本、私たちとの関係について

僕はテレビの仕事とかしてるんですけど、企画書出そうと思ったら、「これ、何、日本と関係があるの？」といわれる。関係なかったら企画書通らないですよ。日本と関係あることやらなきゃいけないわけだから。だけど、日本の教科書でアフリカって索引でみたら、二つくらいしか出てこない、アフリカで人類が生まれたっていうのと、60年代の独立くらいでしょ、たぶん。それに比べたら、新聞はがんばっている、と思ったほうがいいと思います。世界史のレベルと比べればね。

● 中学校の教員やっています。確かに、アフリカってひとくくりにしてしまいます。中学校の地理の教科書とかになりますと、世界を知ろうという、3カ国（アメリカ、中国、ドイツ）を代表で調べるだけなんです。それ以外の国に目を向ける機会はない。トゴってアフリカなの？という話、今の子どもたちもきっと同じだと思うんです。理解が深まることはないでしょうし…。せめて、じゃあ、日本とどう関わっているんだろう、というところから子どもたちが見ていけば、それはそれで一つの手段にはなるかなと考えています。

● トコさん：「関係ない」って、アフリカと「どこまで関係ない」といえますか？ IMFや世界銀行などの国際機関が出している数字で、世界市場の範囲や理屈の中でしか考えないんだったら、同じように、今のメディアがそのようなパフォーマンスを披露するなら、（なんていうか、市場原理主義）政府と同じやり方になるのではないのでしょうか。結局、バイアスが増えてしまう形になる。

「関係」あるんですから。日本がレアメタル、タンタル、コルタンをどこから買っているのでしょうか？ アメリカやオーストラリアから、なかでも世界中に出回っている今後からの需市場品が含まれている可能性が非常に高いとされている。ダイヤモンドもそうですけど、新鮮な魚まで、「アフリカ」は日本と関係していることは事実です。調べきれないほど関係あるのに、報道陣も関係ないって言っている人がいる。ちゃんとした記事を出している記者ももちろんいるけど。これからエネルギーや安全保障について、いろいろな問題がでてくるはずですから、関係ないといひ続ける自信はあるんだろうか。

報道されるべきものが本当に報道されているか。イラク戦争が勃発したというので、スーダン・ダルフール紛争は報道されない、中国がそこに進出しているから報道陣が皆そこにとびつく、それが私の言う「アフリカ報道」の「希薄さ」ということです。

大国を小国より優先するのは仕方がない場合がある。しかし、ジャーナリズムの認識は国民（市民）、あるいは全世界の声なき弱者の声を出していくべきこともあって、アフリカは弱者と見なしてODAの（ODAの理念自体が孕んでいる問題を忘れてはならないが…）お金を出しているならば、結果的に、バランスよくアフリカが報道されてもおかしくないのではないだろうか。関係あるのに関係ないと言う姿勢。それがけしからんという問題を提起として訴えていきたいと思います。

● 教員です。生徒にどうやって関心をもってもらおうかということを考えないといけなくて、それでどうつながっていくかを考えるために、いま自分たちの生活とどうつながっているかというところを、見ないといけなと思っています。

● ちょっと待つて。日本の障害者などにこだわっている人たちに、「なぜ、アフリカに関心があるのか」と聞いたとき、「つながっているかどうかではなく、同じ社会の中に黙って見過ごせるようなことがあるんですか？」といわれた。平均余命が30代になった国がある。それをどう思いますか？と問いかけられている。

何もできない私たちではなく、何かができる私たちがいる。個人として誰かが（アフリカへ）行くというだけでなく、そこへ向かってお金をつけたり、あちらでNGOが出来る仕組みを作ろうとすることができるわたし達がいるということ。そのことを知った人にとって力になる。そういう問題だと、僕は思っている。

僕は、個人的なアフリカに対する思いいれとか関心ほとんどない。あまり行ってないし。でも、自分の生きている社会でこんなおかしなことがまかり通っている社会はおかしくないか、ということ。そう思っている人がどんな風に伝えるかが大切で、自分にとってはアフリカがひっかかっているささった棘みたいなんだけど、そういうこだわりを見せていく作業が必要だと思う。皆さんもそれがあってこだわっていらっしやるのではないか。

まとめ（座談会を終えて）

当日は、座談会終了後、懇親会をおこないましたが、その場でも、さらに様々な意見が出され、活発な議論が繰りひろげられました。この頁では、そこで出された意見を中心にご報告いたします。

● “良い” アフリカ報道とは何か 新聞に何を求めているか。

座談会や寄せられた記事に添えられたコメントを通じて、新聞離れと言われながらも、まだ多くの人が、新聞を読みながら色々なことを考え、また、考えながら新聞を読んでいるのだと、あらためて気づかされました。

事実とオピニオン

「“良い”アフリカ報道」については、読み手の考えや好みに左右されるため、規定することはできませんが、それでも、記事への疑問や同感など、出された意見から共通項として挙がったことは、

私たちが求めていることは、「事実」である
という点でした。

では、「事実」とは何か。書き手に、視点なりセンスなり、なんらかの考え（オピニオン）があるからこそ、物事のひとつの側面を鋭敏に切り取って表現することが可能になるわけで、その記事に対して、異なる視点の

「事実」を要求すること、あるいは別の「事実」で対抗することは、重要ではあるもののそれだけが記事や新聞の質を高める解決策なのかどうか、答えを出すことはできませんでした。

ただ、わたし達は、政党紙や団体の会報などのような「オピニオン紙」を求めているわけではないという点は明らかで、新聞には、まず、「事実」の報道を望んでいます。もちろん、社説やコラムなどに掲載される「オピニオン」は、歓迎するものですが、その「オピニオン」が明確に、「事実」と区別されていることが重要であり、そうした記事が増えることを期待しているのです。

そして、それは同時に、読み手である私たちが、書かれている記事から、「事実」と「オピニオン」を読み解く力を持つことが必要であり、記事に書かれていない「事実」の異なる側



「みさと屋」さんのおいしいお料理で、懇親会は和やかに、でも議論は真剣に行われました…。

面の存在にきづくこと、別の側面を探し出す力を養うことが必要だと実感しました。

写真

「写真」と記事の関連も話題に上りました。今回は、掲載しませんでしたでしたが、今年（2008年）1月31日（水）の毎日新聞夕刊2面（総合）に「ケニア全土報復連鎖」と題して掲載された写真について、「とても恐ろしい写真」と感じた一人の参加者は、暴動の様子を伝えるのにいいのかもしれないがと前置きした上で、「これが日本中に出回ったかと思うとびっくりした」という率直なコメントを述べていました。

どの写真が、記事を一番的確に表現できるかという判断は、事実とは何かと同様、難しいものです。座談会では、過去の写真の使い方（2005年6月23日毎日新聞8面「先進諸国にほんろうされ 貧しさ解消できぬアフリカ」）を例に、少なくとも、記事とは無関係の写真に掲載して、記事の内容を誘導する（あるいは写真の解釈の記事の内容に沿わせる）という結果になることは避けるべきではないかという意見が出されました。

写真も、掲載する記事あるいはキャプションによって、「事実」が「オピニオン」に変わってしまう危険性を持つものだからです。

● アフリカと日本の関係

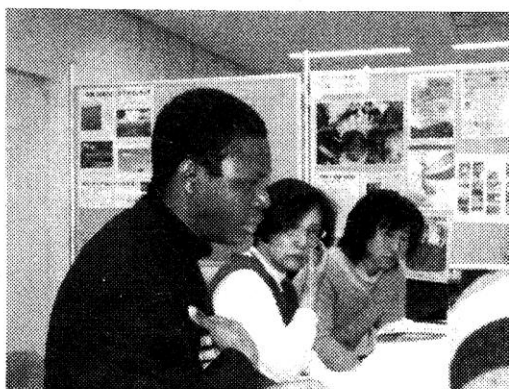
日本の利害からみたアフリカ？

報道によれば、朝日新聞は、アフリカを今年の「重点地域」にしているそうです。それはTICAD(アフリカ開発会議)があるからでしょうか？逆に言えば、来年TICADはありませんので、アフリカの記事は優先課題にならないかもしれないということになります。アフリカ以外の地域でも同様のことが起こるでしょう。

特定の「問題」ではなく、「地域」に一年ごとの重点地域を設けるということはどうなのか、そして、日本側の理由で世界を見ることは？他ならぬ「報道」のスタンスとして、これらが正しいのかどうか、疑問が残りました。

関係があるとか、ないとかではなくて。

座談会で参加者の1人の、同じ社会に生きているものとして「ほっとけない」というような発言があり、「そうなんだよ」と、日本との関係から伝えようとしていた人も含め、参



加者も私達も、そのことに気づきました。

自分に関係ない、日本に関係ないということではなく、同じ社会に生きるものとして、そんなのほっとけないじゃないという、そういう思いが、メディアも政治も変える力になるのではないのでしょうか。

●そして、DADAに求められているものは…

自分たちはどんな行動をとるのか。DADAとして何ができるのか。トコさんから、「独自メディア」の存在の重要性がなんども出されました。データベースを含む、いわゆる「記録」の積み重ねが重要であるという発言もありました。

インターネットの普及で、メールマガジンやブログなども含めれば、アフリカの情報に関して、驚くほどの数で独自メディアが既に存在しています。DADAがそのメディアの仲間入りをするのも、一つの方法かもしれませんが、それとは異なった方向を目指すという選択もあるわけです。もう少し、時間をかけて、検討したいと思っています。

まずは、現在メディア・ウォッチで行っていること、アフリカクリップ(アフリカ記事一覧)をまず充実させることが何より重要です。

より多くの方にご参加いただけるよう、工夫を重ねてまいります。これからも、ご協力よろしくお願いいたします。

次頁以降に、座談会の中で取り上げた、「2007 気になる記事」12件とメディア・ウォッチで行っている「アフリカクリップ(アフリカ記事一覧)」を基にして作成した統計資料を掲載しています。

使用した新聞は、朝日、毎日、東京の3紙のみであること、カテゴリーの定義などをDADAの定義でおこなっていること、記事一覧も、公式なものではないことをご了承下さい。

これらは、ボランティアが新聞をウォッチしているデータを基にした統計結果であり、見逃している記事がある可能性も含んでいます。その意味から、これらは、限定されたデータであり、必ずしも、これによって日本の新聞全体における「アフリカ報道」の傾向を示すものではありません。

それでも、こうした数字によって見えてくる、現在の「アフリカ報道」の一面をお伝えできるのではないかと考えています。参考にさせていただければ幸いです。(DADA一同)

【参考資料 統計】

DADAのアフリカクリップでは、現在、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、東京新聞、新潟日報、沖縄タイムズ、長野市民新聞、新聞赤旗の切り抜きをしていますが、昨年1年を通じて記事掲載をフォローしたのは、**朝日新聞、毎日新聞、東京新聞**の3紙です。座談会および今号の特集で使用した数字は、すべて上記3紙の記事を元としています。

【参考①】 2007年の12ヶ月間に掲載されたアフリカに関する記事の数

| | 朝日新聞 | 毎日新聞 | 東京新聞 | 新潟日報 |
|-----|------|------|------|------|
| 1月 | 14 | 23 | 20 | - |
| 2月 | 29 | 16 | 12 | - |
| 3月 | 19 | 17 | 13 | - |
| 4月 | 19 | 23 | 11 | - |
| 5月 | 9 | 16 | 11 | - |
| 6月 | 21 | 9 | 7 | - |
| 7月 | 9 | 7 | 7 | - |
| 8月 | 7 | 31 | 4 | 2 |
| 9月 | 12 | 19 | 4 | 5 |
| 10月 | 28 | 14 | 9 | 4 |
| 11月 | 26 | 26 | 14 | 0 |
| 12月 | 34 | 26 | 0 | 0 |
| 合計 | 198 | 227 | 112 | 11 |

*朝日新聞(13版)、毎日新聞(朝刊13版、一部14版、地方版は多摩版、夕刊3版、一部2版)、東京新聞の朝刊(12版)をウォッチしているアフリカ・クリッパー・ボランティアの集計を元としています。

【参考②】 この1年で、新聞に掲載された国、上位5カ国

| 三紙 合計(476件中) | 朝日新聞(166件中) | 毎日新聞(227件中) | 東京新聞(112件中) |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| アフリカ全般 | 85 | アフリカ全般 | 51 |
| ソマリア | 68 | スーダン | 33 |
| スーダン | 67 | ナイジェリア | 24 |
| 南アフリカ | 41 | ジンバブウェ | 21 |
| ケニア | 38 | ケニア | 19 |

*朝日新聞の「ナイジェリア」「ジンバブウェ」は、共に連載があったために突出していますが、全般的には、どの新聞も、紛争に絡んだスーダン、ソマリアの扱いが多いと言えます。

【参考③】 掲載された国の数、3紙比較

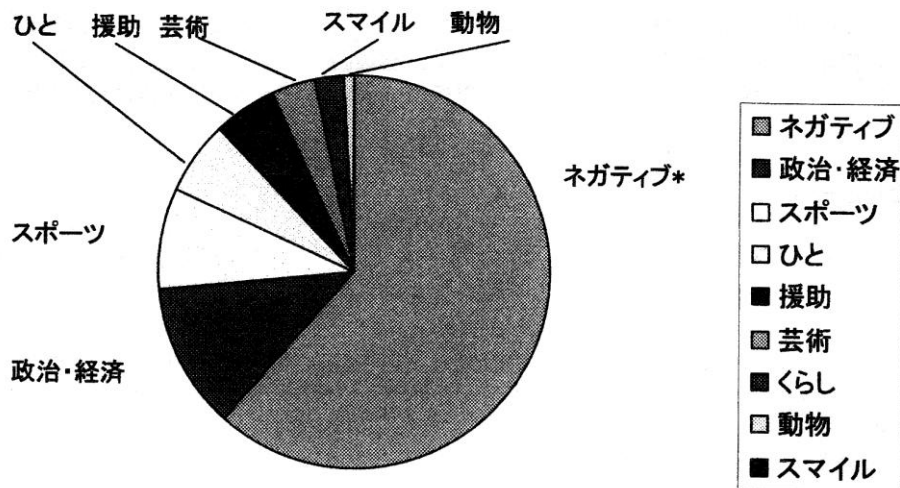
| 2007年 | 朝日 | 毎日 | 東京 |
|----------|---------|---------|---------|
| 2006年下半期 | 31カ国2地域 | 32カ国2地域 | 25カ国3地域 |
| | 16カ国1地域 | 32カ国4地域 | 25カ国1地域 |

【メモ】 アフリカの識者

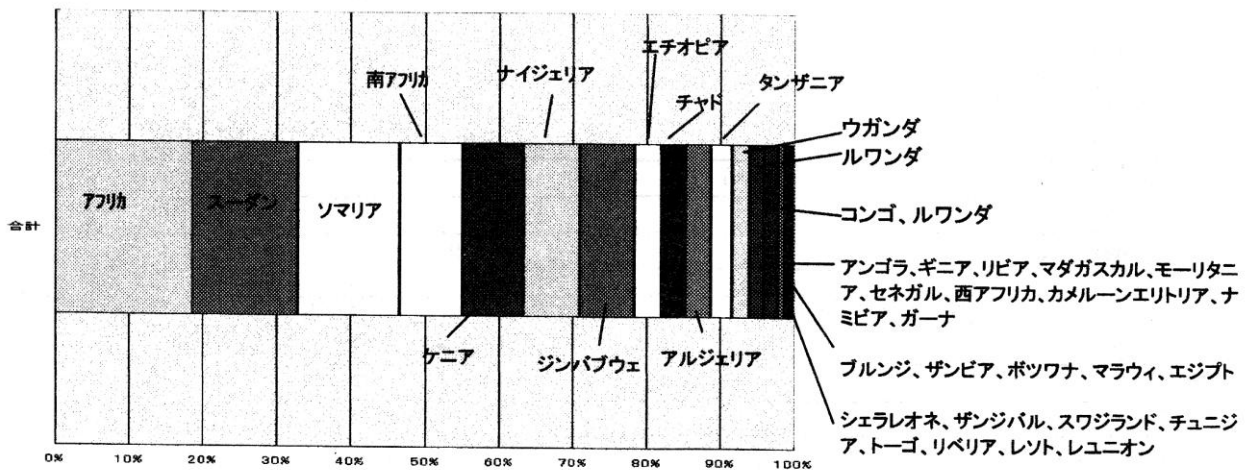
新聞各紙には、「世界の論調」・「私の視点」(朝日新聞)や、「世界の目」・「The Interview」・「キーパーソン」(毎日新聞)など、アフリカの大臣や識者の紹介・発言が掲載される欄があります。

件数は、右頁の【参考④】の【ひと】に含まれますが、そのうち、目安として紙面の1/8程度以上の量で紹介された論説やインタビューは、昨年中、12件(朝日新聞2件、毎日新聞9件)ありました。

【参考④】ネガティブなイメージが占める割合



- 算出の仕方:3紙の記事をカテゴリーでわけ、「ネガティブ」には、“紛争”“貧困・飢餓”“難民”“暴動”“犯罪”“負の歴史”“債務”“災害”“エイズ・病気”“政治の混乱”“不正”“偏見・因習”“密航”など、ネガティブ(マイナス)のイメージとなる記事が入っています。
- 「政治経済」には、国際会議開催の記事や、政治、選挙、経済の記事を入れていきます。同じ政治経済の記事であっても、“不正”や“混乱”などが扱われている場合は、「ネガティブ」にカウントしました。
- 「ひと」は、「ひと」(「ひと模様」、「ぴーぷる」含む)欄、死亡記事のほか、「The Interview」、「キーパーソン」(毎日)、「ニュースの顔」(朝日)などの記事が含まれます。(左頁の【メモ】もご覧下さい)
- 「芸術」は、文化、音楽の他、書評(2件)も含まれています。
- 「スマイル」は、毎日新聞が掲載している「世界の笑顔」(2007年12月10日以降“スマイル”に改題)の記事で、1年で11件(3カ国)が掲載されました。



【参考⑤】 国別の掲載数

アフリカ・クリッパー募集してます！
地方紙大歓迎

DADAでは、アフリカ記事をクリップ(切り抜き)して
 くださる方を募集しています。
 ご関心のある方は、ぜひ事務局まで！
dada-africa@nifty.com

速報 ジンバブウェ統一選挙

3月29日には、ジンバブウェで統一選挙（大統領選、上院、下院）が行われました。すでに新聞などで伝わっておりますが、大統領選の開票結果が公表されておらず、周辺国や、国連（とりわけ欧米）などの場で懸念が表明されています。今回は、現時点で得られる情報をもとに、上院・下院の開票結果などをご報告いたします。

● 今回の選挙：議席数と日程

日本の衆議院にあたるのが下院、上院は参議院にあたる。議席数は、下院が210で、上院が93。
ただし、93議席の内、選挙で選ばれるのが60議席で、その他には、チーフから選出される議席が18、各州知事の議席が10、新大統領によって任命される5名の議席がある。

ジンバブウェの場合、日本のように住民票ごとに投票の案内が送られてくるわけではなく、投票しようと思う人は、登録しなくてはならない。その後、選挙区が定められる。今回の各日程は以下の通り；

| | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1月下旬 | 選挙区決定 | 2月14日 | 投票登録締切 |
| 2月15日 | 立候補締切 | 3月29日 | 投票日 |

● 政党

ZANU PF（ジンバブウェ・アフリカ民族同盟愛国戦線 現与党。党首は、ロバート・ムガベ大統領）

MDC (AM)（民主変革運動 アーサー・ムタンバラ氏派）

MDC (MT)（民主変革運動 モーガン・チャンギライ議長派）

*MDCは、1999年に出来た政党であるが、昨年、二つに分裂した状態が続いている。

● 開票結果

各州で選出された議員の所属政党は以下の通り

| 下院（日本の衆議院にあたる） （州） | MDC (AM) | MDC (MT) | ZANU PF | 無所属 | 未選出 |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|----------|----------|
| Bulawayo（ブラワヨ） | - | 11 | - | - | 1 |
| Harare Province（ハラレ） | - | 28 | 1 | - | |
| Manicaland（マニカランド） | - | 20 | 6 | - | |
| Mash Central（マシヨナランド・セントラル） | - | 2 | 16 | - | |
| Mash East（マシヨナランド・イースト） | - | 4 | 19 | - | |
| Mash West（マシヨナランド・ウエスト） | - | 6 | 16 | - | |
| Masvingo（マシング） | - | 14 | 12 | - | |
| Mat North（マタベレランド・ノース） | 3 | 5 | 4 | 1 | |
| Mat South（マタベレランド・サウス） | 7 | 2 | 3 | - | 1 |
| Midlands（ミッドランド） | - | 7 | 20 | - | 1 |
| Total: 210 | 10 | 99 | 97 | 1 | 3 |

| 上院（日本の参議院にあたる） （州） | MDC (AM) | MDC (MT) | ZANU PF |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|
| Bulawayo（ブラワヨ） | 1 | 5 | - |
| Harare Province（ハラレ） | - | 6 | - |
| Manicaland（マニカランド） | - | 4 | 2 |
| Mash Central（マシヨナランド・セントラル） | - | - | 6 |
| Mash East（マシヨナランド・イースト） | - | - | 6 |
| Mash West（マシヨナランド・ウエスト） | - | 1 | 5 |
| Masvingo（マシング） | - | 3 | 3 |
| Mat North（マタベレランド・ノース） | 3 | 2 | 1 |
| Mat South（マタベレランド・サウス） | 2 | 1 | 3 |
| Midlands（ミッドランド） | - | 2 | 4 |
| Total: 60 | 6 | 24 | 30 |

● 大統領選

大統領選の候補者は、以下の4名。

・ロバート・ムガベ氏 (84歳) 与党ジンバブエ・アフリカ民族同盟愛国戦線 (ZANU-PF) 党首。1980年以來、政権の座に着く。(独立時は首相。その後、大統領に就任) 当選すれば5期目)。

・モーガン・チャンギライ氏 (56) 民主変革運動 (MDC) 議長。ムガベ大統領の長期政権を批判し、経済立て直しを訴える野党第一党首。

・シンバ・マコニ氏 (58) 無所属。元SADAC事務局長、元財務相。与党ZANU-PF党員であったが、立候補後、党員資格を剥奪されている。今年2月に入ってから立候補を表明した。

・ラントン・トウンガナ氏 無所属。

任期は5年。投票の過半数以上を獲得できない場合は、上位2名で再選挙となる。
投票は予定通り、3月29日におこなわれたが、4月20日現在、結果は公表されていない。

また、ZEC (ジンバブウェ選挙委員会) の発表では、一部の州で集計に不正があったとして再請求が支持された。野党は、これに対し“Recount”ではなく、“Discount”であるとして、断固拒否の姿勢を貫いている。

なお、日本でも、毎日新聞などで報道された通り、ジンバブウェ政府が、先ごろ、国内で取材をしていた外国メディアに対し、滞在許可延長を認めないと発表、そのため、メディア関係者も出国した模様です。

ジンバブウェ報告会のご案内

代表の尾関が、4月下旬からジンバブウェを訪問いたします。帰国後、報告会を以下の要領で開催いたします。選挙の話だけでなく、気になる超インフレの実態、村の様子など、ご報告申し上げます。

日時: 2008年6月1日(日) 午後2時~4時頃(開場1時半)

場所: 調布市市民活動支援センター内 はばたきスペース

東京都調布市国領町2-5-15 調布市市民プラザ あくろす 2階

参加費: 300円(資料代)

★ 会場までの道順

京王線「国領」(こくりょう) 駅下車 (各駅停車)

改札を出て右の階段をおり、ビルの角(薬局)を曲がると、ビルの入り口があります。

西友の入口の手前、左側にある階段またはエレベーターで、2階にお越し下さい。

当日連絡先: 090-2941-9280

参加ご希望の方は、お手数ですが、DADAまでご連絡ください。
(dada-africa@nifty.comまたはFAX:042-444-6934) (当日も受付ます)

皆様のご参加をお待ちしています。

ムビラサミットEAST Vol.3

東アフリカ親指ピアノのグループを日本中から一堂に集めた夏の祭典！！

お知らせ

東アフリカの国々に伝わる伝統楽器、親指ピアノ。タンザニアの伝統楽器リンバ、ジンバブエが誇る民族楽器ムビラなど、この楽器が持つ魅力をより多くの人に知ってもらう為、イベントを企画しました。一年に一度、日本で活躍している親指ピアノ奏者が一同に集まるお祭りです。将来的には世界の国々のアーティストにも参加してもらえるようなイベントに育てていきます。そしてそのことが異文化への理解、さらに世界の平和へと繋がっていくのが我々の願いです。

DADAも
村の
お話を
します。

日時 2008年 6/28(土) 15:00開場 16:00開演 21:00終了

場所 横浜 THUMBSUP サムズアップ <http://www.stovesyokohama.com/thumbs/>

横浜市西区南幸2-1-22 相鉄Movil3F Tel: 045-314-8705

主催 ムビラサミットEast実行委員会

後援 ジンバブエ大使館/タンザニア大使館

出演 サカキマンゴ、ムビラトロン、ハクナターフ、ムビラジャカナカ+ハヤシエリカ、ズバネズバムビラ、カリンバヒロユキ

料金 前売12800円 当日3000円

予約連絡先: サムズアップ Tel: 045-314-8705

出店: お気楽窯、ムビラジャカナカオンラインショップ、Maria、UBI Piano Shop

// 編集後記 //

- アフリカ報道について、自分は日本に関係があるかないかについては、全然関心ないことが分かった。自分の中の正義とかほっとけないとか、そういう気持ちの方が優先されているんだな。(PON)
- コープのおしらせにTICADとルワンダに関する講演会が載っていた。身近なところで“アフリカ”に触れることができ感激。もちろん参加!と思ったが、息子の家庭訪問とパッティングしていた。残念。(佐)
- 最後にジンバブウェを訪れてから早3年。新聞に書いてある「アフリカ」関連の記事が実際の状況をどの程度反映しているのかなど正直わからない。でも、記事の情報源がどのようなものかは、文面からある程度読み取ることができるのかもしれない。そして、どの情報源が洩れているのか、も。(廣)
- 5月には横浜でTICADIV(第四回アフリカ開発会議)が開催されます。TICADIII後の動きにはまったく参加していないため、情報が入らず、存在(開催)すら認識しなくなる自分を発見。普通の人々の「アフリカへの関心」も同じ感じかと今更ながら実感。(尾)

会報 DADA 第7号 2008年4月20日発行

《発行人・編集責任者》尾関葉子 《編集スタッフ》本田真智子、廣内かおり、佐藤由規

《印刷協力》東京都調布市西部公民館

《発行》アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

(Dialogue and Action for Development Alternatives in Africa and Japan)

郵便物送付先: (東京) 〒182-0022

調布市国領2-5-15 調布市市民プラザ あくろす

市民活動支援センター内 ボックスNo.7

(沖縄) 〒900-0013

那覇市牧志3-2-10 ぶんかテンプス館3階

那覇市NPO活動支援センター気付

FAX: 042-444-6934 E-mail: dada-africa@nifty.com URL: <http://homepage3.nifty.com/DADA/>

郵便振替 00160-3-499558

銀行口座 東京三菱銀行 調布支店(普) 1858435 ダダ



※この会報は森林認証パルプ+植林木パルプ80%以上の紙を使用しています。

